こっせつ

W校　三年四組　今堀　勇太

ぼくは、ほうか後に友だちと、学校の公園でおにごっこをして遊んでいました。ぼくはにげながら、うんていをしました。四本目のぼうをつかもうとしたしゅん間、手が汗でズルッとすべり、下にズドンと落ちました。

「いたた。」

ぼくは右ひじが今まで感じたことのないほどいたかったので、思わず泣きました。

家に帰ると、お母さんがほれいざいでぼくのうでを冷やしてくれました。それで右ひじがどんどんはれてた。

きたので、病院に行きました。

ぼくは、ベッドでねっころがりました。かんごふさんがいたみ止めの薬をくれました。次はレントゲンをとりました。

「こっせつしてるよ。」

と、お医者さんが言いました。そして、お医者さんがぼくの手にほうたいのようなものをグルグルまいて、ギプスを作りました。もう夜の九時です。ぼくはおなかがすいて、くたくたでした。そして、一日が長く感じました。お母さんが

「帰るよ。」

と言い、みんなで家に帰りました。

でも、次の日からぼくはこまりま

した。右手でえんぴつとはしを使えないからです。左手で書くと、字がぐちゃぐちゃだし、ゆっくりでしか書けないからです。また、おはしが使えないので、スプーンやフォークしか使えません。それにギプスがどんどんくさくなるのがつらかったです。毎日お母さんが、ギプスの汗やよごれをふいてくれましたが、それでも最後は、納豆のようなにおいもしてきて、本当にいやでした。

一ケ月半後、マンハッタンの病院に行きました。医者が変な機械を持っていました。

「今日はギプスを取るよ。」

と言いました。医者はギプスの中に

ものさしを入れました。それで、その上の部分のギプスを電動のこぎりで

「ウイーン、ウイーン。」

と切り始めました。ぼくはドキドキしたけれどサクサク切れるのが気持ちいいと思いました。そこで、のこぎりの音が止まりました。

「パカッ。」

とお医者さんが、ギプスを取りました。

ぼくは、右手が使えるようになった。右手が軽くなった気がしました。

てすごく幸せでした。いつも使っている右手が使えなくなるとどんなに不便になるかということがよく分かり、この右手を大切にしたいと思い

ました。そしてもう二度とこっせつはしたくないと思いました。



16×16

ミュージカル「マティルダ」

W校　三年三組　いとう晴子

わたしは、「マティルダ」という物語が大好きで、今までに何どもえい画を見たり、本を読んだりしてきました。そして、先月、ずっと見たかった、ミュージカルのマティルダをついに見に行くことができました。

マティルダは、本を読むのが大好きなとてもかしこい女の子です。でもお父さんとお母さんは、マティルダが生まれた時から何もお世話せずにテレビばかり見ていました。マティルダの年もわすれているほどでした。そんなマティルダが、学校に行くことになり、たんにんの先生と

の出会いで、人生がかわっていくお話です。

わたしは、マティルダがかしこいのは、お母さんとお父さんがマティルダのことを全くかまわなくて、本を読むしかなかったからだと思います。きっと、マティルダは、たくさんがまんもしたと思うけれど、いい先生に出会って、いっしょにすむことになり、とてもしあわせだったと思います。

バージカルでマティルダをえんじた子は、わたしと同じくらいの子でした。一人で歌う場面がいっぱいあり、「すごいなあ」と思いました。

セリフもたくさんあり、「練習もたく

山したんだろうな。と思いました。

わたしはミュージカルのマティルダを見て、同じ物語でもちがう感じがして、とても見ごたえがありました。

ミュージカルの楽しさを知り、わたしもいつか、えんげきをしたいと思いました。

グランドサークルへの旅

W校　三年三組
梶ケ谷　陸斗

ぼくは、夏休みにグランドサークルに行きました。ラスベガスでキャンピングカーをかりて、ぼくとぼくの家族は出発しました。

ぼくたちが通ったルートは、ザイオンキャニオン、ブライスキャニオン、アーチーズ、モニュメントバレー、ホースシューベント、アンテロープキャニオン、グランドキャニオン、セドナからルート66を通ってラスベガスにもどるルートでした。

最初にとまったザイオンキャニオンでは、朝日を見た後乗馬で山道を

一時間半トレールしました。こんなに長く馬に乗ったのは、はじめてでした。ぼくが乗った馬の名前は、ベイブでした。ベイブは、白くてかわいかったけれど言うことを聞かない馬でした。馬をおりた後、川の中をトレールしました。どろの川水でびしょぬれになって歩くコースでした。おもしろいトレールでした。

トレールは、ほかにもブライスキャニオン、アーチーズ、ホースシューベントでもしました。どの場所も見たこともないようなけしきでした。グランドサークルに行って、地球にこんな所があるんだなとおどろきました。どこまで行っても赤茶のきよ

大な岩だらけで家もないさばくのけしきは、まるでうちゅうのほかのわく星みたいでした。このけしきは一生心にのこるとぼくは思いました。

一ばんすごいと思ったのは、ロウアーアンテロープキャニオンです。ロウアーアンテロープキャニオンは、地下の岩のどうくつでした。太陽の光が上から光ってきたのがすごくきれいでした。

この旅行で、ぼくのゆめが一つかないました。それはキャンピングカーで旅行に行くことです。三才のころからのゆめだったので、とてもうれしかったです。ぼくたちはまずラスベガスでキャンピングカー会社の

人にキャンピングカーの使い方を教えてもらいました。ぼくもお父さんとその説明を聞いて使い方を覚えました。電気、はい水、水のホースをキャンプ場でつなげないといけません。ぼくは、毎日お父さんの手つだいをしました。キャンピングカーは広くてかいてきでした。中にはソファーとベッドが二つとトイレ、シャワー、キッチンがありました。キャンピングカーで十一日間毎日いどうしました。キャンピングカーの生活は楽しくて、ぼくはいつかキャンピングカーを買いたいと思いました。

グランドサークルはすごく暑いだろうと思ったけれど、夜は寒い所

もありました。水がつめたい時もあったけれど、キャンプ場のプールや川で泳ぎました。一ばん楽しかったのは川で岩からとびこんだことです。岩は、四メートルぐらいの高さでした。すごい高さでさいしょはこわかったけれど、一回とびこんだら楽しくて、何回もちょうせんしました。

この旅行のことがわすれられなくて帰ってきてからもまた行きたいな。と よく弟と言っています。またいつかキャンピングカーで旅行に行きたいです。

ぼくの親友

W校三年　皆川　優伊

ぼくの親友はフィンです。フィンは男の子です。フィンはぼくのバディーで、いつも助けてくれます。

朝、学校へ行くと、「ハーイレ」と声をかけてくれます。帰る時は、「バーイレ」と声をかけてくれます。「ハーイレ」や「バーイレ」を言われたらぼくも「ハーイレ」や「バーイレ」を言います。

フィンは毎日、体育の時間、図書の時間、音楽の時間、図工の時間など、細かく助けてくれるのでうれしいです。

体育の時間は、フィンがぼくとい

16×16

っしょのチームになってくれて助けてくれます。ぼくはフィンがいると、体育が楽しくできます。

図書の時間は、フィンが近くにいてくれて、いろいろな本をすすめてくれます。本をえらんで借りたら、ソファーにすわって本を読んでくれます。

音楽の時間は、まず歌を歌います。フィンはいっしょに歌ってくれます。次にリコーダーをします。フィンがとなりにすわって、吹き方を細かく教えてくれます。

図工の時間は、絵をかく時や物を作る時にフィンがやり方を教えてくれます。フィンの言うとおりにする

と、とても上手にできあがります。

算数の時間は、さいしょはみんなで計算して、後からチームに分かれて計算します。チームは二人で一チームです。フィンは文章問題で、どれとどれをたすのかと、どれとどれをひくのかを、細かく教えてくれます。

コンピューターの問題は、一人一つのコンピューターを使います。フィンは先生の言っているとおりにすすめてくれます。そして問題が出てくるところまですすめてくれます。

本を読む時間が毎日あり、フィンが本を読んでくれます。えい語だけど、まあまあ分かります。

お昼ごはんを食べる時は、カフェテリアに行きます。そしてぼくが指さした物をとってくれます。ごはんを食べる時は、となりにすわってくれます。そしてごはんを食べる時間が終わる時に知らせてくれます。

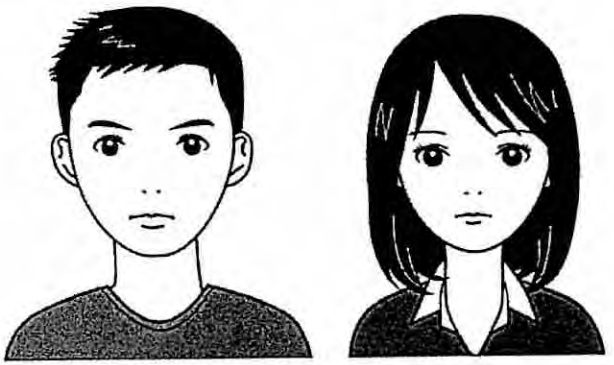
さいごのじゅぎょうが終わると、どちらが早く仕たくができた方が、リュックサックを持ってきます。いつも教えてもらっているお礼に、ぼくがリュックサックを持ってあげるためにがんばっています。

ぼくもフインに日本語を教えています。フインはひらがなが上手です。フインは六が言いにくいみたいなので毎日教えています。

16×16

ぼくがえい語を話せるようになったら、サマーキャンプに行きたいです。そこでいっしょにお泊まりがしたいです。

いつかフィンにいっぱいおん返しをしたいです。



16×16

ハンマースクールと日本の学校

三年一組　みな川　み森

わたしは、ハンマースクールという学校にかよっています。学校には、目の青い子や、顔の黒い子など、色々な子がいます。かみの毛が金色の子は、ほとんど目が青いです。

わたしには、ジェナーリーという親友がいます。その子は、スペイン語が話せます。かみがクルクルで、目とかみの毛の色はちゃ色です。

日本の学校の子には、かみの毛は黒、目の色はちゃ色、はだの色はき色の日本人しかいませんが、ハンマースクールには、いろいろな国の子どもたちが集まっていて、日本とは

16×16

ちがいます。

アメリカの男の子は女の子にやさしくて、男の子と女の子が手をつないであそんでいます。日本の男の子たちは、女の子を遊びに入れてくれないけれど、アメリカの男の子たちは、遊びに入れてくれます。わたしはそういうアメリカの子どもたちにおどろかされます。わたしは「ずっとアメリカにいたいです。」アメリカがすごく楽しいので感どうします。先生もみんなやさしいです。お母さんは、

「アメリカの大人は子どもが大すきだから、こわい先生はいないよ。」

と言っていました。

16×16

六年生になるころはえい語が話せるようになっていたいです。でも日本語もおぼえないと、日本に帰った時にこまります。わたしは、しょうらいエンジンをしゅうりするお仕事や、世界の人と協力するお仕事をしてアメリカでお仕事をしたいです。お母さんができるから、わたしにもできると思っています。世界の人たちと話せるのは、アメリカだけです。えい語も日本語もいっぱいべんきょうして、世界中の人たちとお仕事をしたいです。

16×16

今一番がんばっている事

ニューヨークW校三年一組
富澤直人

ぼくが今一番がんばっている事は、テニスです。

ぼくがテニスを初めてテニスをしたのは、六才の冬でした。お姉さんと一緒に小学校の体育館でテニスクールの体けんにさん加したのです。ボールを打つのがとても楽しかったので、テニスを始めたいと思いました。一週間に一回、一時間、走ってリ、ボールを打ったりして楽しかったです。七才の夏、ぼく達家族はニューヨークに引っこして来ました。テニスをやりたかったけれど英語が

16×16

わかりなくて、ぼくが好きだと思うテニススクールがありませんでした。

ハ才の冬、日本語で教えてくれるテニススクールをやっと見つけ、ぼくは、とってもうれしかったです。通い始めてみると、日本で行ってたテニススクールとは、全ぜんちがいました。何がちがったかと言うと、子どもなのに、テニスプレイヤーの様な動きをしている人が何人もいたのです。ぼくは、すごくおどろきました。それを見て

「ぼくもそんなふうになりたいなぁ。」

と、思いました。毎週金曜日通い始めて、何を習ったかと言うと、

「力を入れすぎない事と、ボールがあたる位置」です。

春には、土曜日のクラスにも通い始め、大きいお兄さん達も一緒で、やっていけるか心配だったけど、ぼくは、一生けんめいトライしました。

夏休みに入って、月曜日から金曜日九時から四時、テニスキャンプに通いました。ものすごく暑い中走る、ボールを打つ、また走る、ボールを打つ。そのくり返しで、楽しかったけど、すごくつかれたです。

七月十六日、初めてし合に出ました。ものすごくきんちょうして、最初は、ミスをいっぱいしました。と

16×16

ちゅうで
「ぜっ対にあきらめないぞ！」
と思って、いつも通りに打とうとしたら、調子が出てきてばんかいし、ゆうしょう出来ました。ものすごくうれしかったです。
次の週、二回目のし合は、すごく強い子がいて負けて、とてもくやしかったです。
その後もテニスキャンプに通い続け、八月十三日キャンプが終わった日、コーチがぼくに
「直人、大進化！」
と言ってくれてうれしかったです。
動きがよくなった、ボールに色々な回転をかけられるようになった、少

していねいに打てる様になって来た。
これが大進化と言われた理由です。
でも、まだまだ足りない所がある
から、もっとどりょくして、強くな
りたいです。そのためにぼくは、毎
日すぶりを七百回い上がんばろうて
思います。
ぼくの目ひょうは、いつかテニス
クラブで一番強い子にかつことです。

16×16

日本からのにもつ

L I 校二年
星 あろは

わたしは、日本からとどくにもつが大すきです。にもつがとどくという知らせを聞くとワクワクします。

ひょうをつくり、あとなん日でとどくのか数えます。

「早く明日にならないかな。」

あと一日でにもつがとどく日、寺、頭の中はにもつのことで

でいっぱいです。

　にもつがとどくその日、ついに学校がおわって家につきました。にもつはとどいていませんでした。しゅくだいをしても、おふろからあがってもまだ、とどきません。

パジャマにきがえ、いもうとあそんでいた、その時ビーと音がしました。

「やったー!!日本からのにもつがきたー」。

わたしはうれしくてたまりませんでした。家の中でジャンプしてはいけないのに、ドタバタとジャンプしてしまいました。

　においがたからのにもつをあけて見ると、そこには色んなものがたくさん入っていました。おこめ、おばあちゃんのまづくりのようふく、日本のかわいいマスキングテープやツヤーペン

ツル。

　かしわのおじいちゃん、おばあちゃんはたくさんのおかしをくれました。そのどれもがアメリカにないおかしでまるでハロウィンみたいでした。

　おじいちゃんやおばあちゃんは、みんながよろこんでいる顔を見たいので、たくさんプレゼントを入れてくれます。」ありがとう」の

テレビ電話をすると私もおじいちゃんもおばあちゃんも二コ二コしています。

つぎのにもつをたのしみにしています。

12×12

わたしのいとこ

ほしゅう校二年四組
大庭真弓

わたしには、いとこがいます。あやかとゆうとはほっかいどうにすんでいて、きょうちゃんとゆいちゃんはあきたけんにすんでいます。

この前の春、おじいちゃんとおばあちゃんといとこがアメリカにきました。

わたしは、とてもうれしくてドキドキしていました。

みんなといっしょに、二3週間すごせるからです。みんなを見たときは、ぜんぜんかわっていませんでした。

ぜんいんで行ったところは、ぜんぶたのしかったけれど、一ばんたのしかったのはナイアガラフォールズへのたびでした。朝、わたしたちはみんなおそろいの

「ふ」くをきてとてもごきげんでした。わたしは、ナイアガラフォールズを見たのは二回目だったけれど、やっぱりいいながめだと思いました。みんなでたきのことを話したりしゃしんをとったりしました。たきのしぶきがきて、みんな「つめたいね」と言いました。でも、わたしは気もちいいと思いましし

た。わたしは、いとこたちととてもいい日をすごしました。今どの冬、わたしは日本に帰るので、またいとこたちに会いたいです。

夏の海

NYほしっ子校二年四組
W校　水野里予　光

夏休みに、ぼくは、おじいちゃんとおとうさんと海に行きました。

汽車が見えるところで、鳥が「コーコー」と、たくさんとんでいました。すなは、あつかったけど、フワフワで、きもちよかったです。

す。
なみの音は、「ジョワーン、ジョワーン」と、なっていました。
なみは、ぼくに、「はやく、はいりなよ。」と、いっているようでした。
海に、はいってみたら、すごくつめたくて、きもちよかったです。
大きななみが、グワーンとやってきて、しぼくは、なみの中にはいってしまいました。
なみの水をの

んでしまいました。すごく、
しょっぱかったです。
シュノーケリングで、海
にもぐりました。「シーン」
としていて、海の中で、ぼ
くは、ひとりぼっちになっ
たみたいで、とても、さみ
しくなりました。
そのあと、かにを見つけ
ました。かにのはさみに、
はさまれそうで、こわくな
り、ぼくは、にげました。

それから、やどかりとはぜを見ました。はぜは、目が丸くて、かわいかったです。やどかりは、じっとしていたので、ぼくは、ゆうきを出して、つかみました。すごく、くすぐったかったです。

夏休みに、海でたくさんあそべて、とても、たのしかったです。また、来年の夏も、ここにきたいです。

サッカー

NYほしゅう校　二年三組

W校

　　とうどうけんじ

　ぼくは、サッカーがそんなにすきではありませんでした。お兄ちゃんがするのを、ぼくもしていました。

　ある日、お父さんが、

「けんじは今ぐらい一つ上の学年でプレーすることになったよ。」

　ぼくは、すると言いました。

2

ぐに、
「いやだ。」
と言いました。でも、お父さんが、
「本田もきよたけも、お兄ちゃんがや、てたかじ
がもはじめて、あんなふうにな
ったんだよ。」
と言ったので、しぶしぶちょうせんすることにしました。
れんしゅうしょ日、だれ

も知っている人はいません。

おかあさんは、

「ピンッとやって。たのしんでね。」

と言って、行ってしまいました。一人、うまい人がいました。ぼくも、しゅう中ましたボリブル、パス、シュートをしました。友だちもできました。むかえにきたおかあさんに、ぼくは、

「ナイこうおもしろかった。」

と言いました。

そうして、はじめてのし合の日がきました。ぼくはひっしでボールをおったけど、あい手チームには大きい人もいるし、フィールドもすごく広くて、なかなかボールにさわれません。だんだんつかれて、あせってきました。その時、ぼくの前が空きました。ぼくはとび出して、あい手のボール

5

をカットして、みかたにボールをとりかえしました。みんなが、

「いいうごきをしたね！」

と言いました。

今ぼくは、サッカーがナイ

「こうすきです。れんしゅうには、だいたいーばんにうまくなりたいです。しばらくすると行きます。

友だちもきます。つぎのし合では、バスッとロングシュートをきめたいです。

ピアノとわたし

W校二年三組
西村彩

わたしは、ピアノが大すきです。なぜなら、ピアノの音がひびいて、とてもきれいだからです。わたしは、大きくなったら、すてきなアニストになりたいです。

これまで、ブルグミュラー、バッハ、リェルニー、

□ローデなどをひいてきました。そのなかで、エレーナリヒテル国さいピアノコンクールで一いをとったことが、一番の思い出です。

今は、モーツァルトがさっきょくした、ピアノコンチェルト二十七番にちょうせんしています。このきょくは、モーツァルトのさい後のピアノコンチェルトです。さい後に作るきょくは

12×12

くらいきょくが多いのですが、このきょくは、元気でかるいきょくです。だから、わたしはこのきょくが大すきです。

　わたしがひいている時は、色々なことを考えています。たとえば、やさしい音の時は、やさしい気もちでひいたり、元気な音の時は、元気な気もちでひいたりします。あと、だんだん強くし

12×12

たりだんだん弱くしたりします。

わたしのピアノの先生はすごくやさしくて、いつもわらっています。先生は、どこに強弱をつけるかなど教えてくれます。

わたしの家ぞくはいつも元気におうえんしてくれます。とくにお母さんは、いつもわたしのピアノを聞いてくれます。だから、わた

12×12

しの家ぞくと先生はわたし
のおうえんだんです。
　わたしは大きくなったら、
どんなきょくでもすぐひけ
るようなピアニストになり
たいです。

12×12

はじめてのコンサート

W校　二年二組
岡田英虎

ぼくは、マルーン5が大すきです。毎日マルーン5の曲を聞くぼくに、ある日お父さんが、

「九月十九日にマルーン5のコンサートがあるけど、行く？」

と言いました。ぼくは、とび上がるほどうれしくて、

「行きたい、行きたい、ぜったいに行きたい！」

とさけびながら、カレンダーに赤い丸をつけました。

コンサートの日、ぼくはボストンにいました。日本から来ていたおばあちゃんとともこちゃんと一しょにりょこうをしていたからです。お母さんは、ぼくの学校に休むれんらくをして、ぼくは、うたもおぼえて、

あとは、二才のいもうととおばあちゃんを家までおくったらいいよいよコンサートに出ばつです。ぼくは、車の中でなんども「早く家につかないかなぁ」と思いました。

あと三十分で家につくというとき、ともこちゃんが、「そういえば、もうすぐアダム・レビーンの赤ちゃんが生まれるから、いく

つかコンサートが中止になっていたよ」。

と言いました。それを聞いたお母さんは、すぐに今日のライブじょうほうをかくにんしました。すると、お母さんが、とんでもないことを言いました。

「今日のコンサートも中止だって！」

ぼくは、一しゅん聞きまちがえかと思いました。一気

にお ちゃ みました。

大切にしていたチケット
は、つかうこともなく、ぼ
くは、はじめてのコンサー
トに行くことができませんで
した。

つぎのマルーン5のコン
サートは、ぜったいに行き
たいです。そのためには、
また家のお手つだいをしな
ければいけません。いそが
しくなりそうです。

「ぼくは本の虫」

W校二年二組

かま田　太しん

ぼくは本が大すきです。

とにかくたくさん読みます。

いくら読んでもあきることはありません。つぎつぎと新しい本を読むこともあれば、同じ本を何回もくりかえして読むこともあります。

本のせかいには、ぼくのまわりにいないようなおもしろ

ろいろな人が出てきます。どんなことをするのかどきどきしながらよみます。話のつづきが気になると、
「もうねなさい。」
と言われても、どんなにねむくても、ずっと読みつづけてしまいます。まんがやテレビを長く見ていると、ちゃうりさんれこことがあるけれど、本をたくさん読むこ

とはちゅういされません。

ぼくにとってはどれも同じぐらいすきだけど本を読むことはほめられます。

夏休み、ほしゅう校のしゅくだいで読書マラソンがあった時、ぼくのいつもの本をわかりました。二一七六時読む時間がはじめて数字で一番になり、とてもとてもうれしかったです。

ぼくみたいな人を本の虫
と言うそうです。本にあな
があいてしまうぐらいに、
これからもたくさん読んで、
本を大すきでいたいです。

たのしかったキャンプ

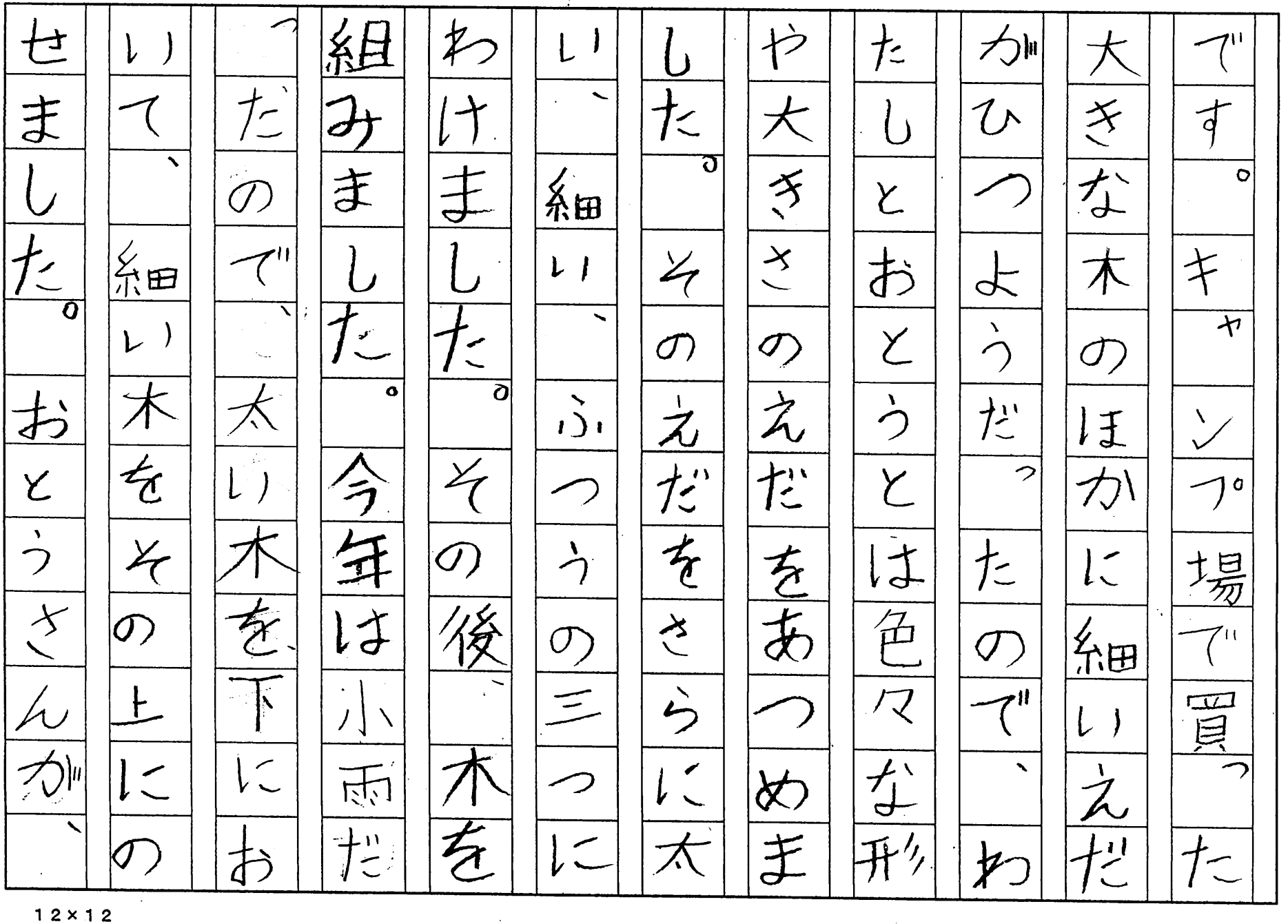
W校二年二組

ごとうえり子

十月二日に一ぱくニ日でキャンプに行きました。

キャッツキルへキャンプに行くのは三回目です。きょ年は晴れていましたが、今年は小雨がふっていました。

キャンプでたのしかったことがニつありました。一つ目はキャンプファイアーをしたことです。


です。キャンプ場で買った
大きな木のほかに細い えだ
が ひつようだったので、わ
たしとおとうとは色々な形
や大きさの えだをあつめま
した。その えだをさらに太
い、細い、ふつうの三つに
わけました。その後、木を
組みました。今年は小雨だ
ったので、太い木を下にお
いて、細い木をその上にの
せました。おとうさんが、

12×12

「天気によって木の組み方をかえないと、火がうまくもえないんだよ。」と教えてくれました。火がついた後、家ぞくみんなで、火のそばにいすをおいてすわりました。小雨でさむかったので、火があたたかくて気もちよかったです。

二つ目は、石をあつめてはしを作ったことです。木のぼうをつかって石をほる

と、色々な形の石がみつかりました。その石をパズルのようにはめるのがおもしろかったです。できた上がったあと、おとうととわたしは、ジャンプしながらわらってはしをわたりました。

き、よ年は、晴れていて、みずうみであそびました。

らい年行く時は、またみずうみであそびたいので、晴れている時に行きたいです。

わたしのおばあちゃん

Iこう一ねん二くみ

エルースリリー

わたしは、ことしのなつ

にほんにいきました。ママ

はしごとがあって二ュー日

ークにかえったので、わた

しはおばあちゃんとう、たり

でくらしました。

いくまえにママは、

「おばあちゃんは、こわい

よ」。

12×12

と、いいました。でも、わたしにはあんまりこわくなかったです。

おばあちゃんのいえではまいあさ、やさいをたべるのでした。ぜんぶたべるごいですからたてません。

おばあちゃんは、まいにちがっこうにむかえにきました。

わたしは、

「おともだちと、かえりたいから、こないで」。

と、いったけど

「あぶないからだめだよ」。

と、いってまいにちきました。おばあちゃんは、にんきものになりました。

わたしとママがニューヨークにかえる日、おばあちゃんはなきだしてしまいました。

「らいねんもおいで。まっています からね」。

と、いいました。



わたしは、またらいねん
もにほんにいって、おばあ
ちゃんにあいたいです。

12×12

三びきのヤドカリ

W校　一年四くみ

小ばたかい

ぼくのいえに、三びきのヤドカリがきて二年になります。ヤドカリの名まえは、ツートン、パリ、ブラッリアといいます。ぼくのおにいちゃんと名まえをきめました。ヤドカリのいえをかぞくでつくりました。大きな水そうの中に、土と砂を

いいえ
れました。ごうかない
もいれました。水とえさも
いれました。えさは、ポッ
プコーンと、ペットフード
プでかったヤドカリのえさ
です。
ヤドカリは、やこうせい
なので、よるに出てきて、
ガチャガチャと音をたてて
いますよるおきて、そっ
と見てると、えさをたべた
り、えの上にのぼったり、

12×12

水をのんだりしていました。
水そうをトントンとたたくと、すぐに、いそいでいえにかくれました。
ヤドカリは、一わかりだとおもいました。
ヤドカリのからだが、大きくなると、からをかえます。
ツートンは、ぼくの手の大きさぐらいのからにかえて、パリは、ツートンのふ

12×12

るいからにかえて、ブラッ
リアは、パリのふるいから
にかえました。からをかえ
るすがたを見ることが、で
きませんでした。
なかいあいだ、いきられ
るように、おせわをたくさ
んしたいとおもいます。そ
して、一かいぐらいからを
かえるすがたを見たいとお
もいます。

わたしのおきにいり

W校　一ねん　四くみ

まつ本　ゆず花

わたしには、おきにいりのぬいぐるみがあります。

なまえは、ここちゃん。

ちゃいろのうさぎです。

ここちゃんは、わたしがうまれたときからいっしょにいます。

いつもいっしょにねて、おきて、きがえてあそびま

す。

ここちゃんは、ときどきおなかを出してねています。

そのとき、わたしは、

「おなか出さないでー。」

といって、ふとんをかけてあげます。

それを見たおかあさんは、

「ゆずがといっしょだよ。」

といって、わらいます。

わたしは、ここちゃんが大すきです。

いつか、ここちゃんが、
ほんとうにうごいたらいい
なとおもっています。

12×12

わたしのゆめ

L工校　一ねん一くみ
りゅうえりな

わたしのゆめは、アイドルになることです。

どうしてかというと、なつやすみにとうきょうのおだいばにいったとき、日本のアイドルのステージを見たからです。アイドルは、いっぱいうたって、おどったりしていました。わたし

も、うたうのとおどるのがだいすきです。

もしわたしがアイドルになれたら、みんなをえがおにして、しあわせにするアイドルになりたいです。みんなをしあわせにするには、うたとおどりのとっくんをしないといけないかもしれないです。

アイドルは、かわいいドレスをいっぱいきれるし、

いろんな人にあえるし、いろんなところにいけるから、だからアイドルになることがわたしのゆめです。

12×12

ほんをよむ

W こうーねん三くみ
中むら　とおや

ぼくは、まいしゅうとしょかんへ、ほんをかりにいきます。

としょかんでは、じぶんでほんをよんだり、はなしをきいたり、すきなほんをえらんで、かりたりします。

ぼくはほんをさがすのが大すきです。

なぜなら、おもしろいことや、いままでしらないことと思みつけられるからです。

このあいだやきゅうについてかいた、ほんをみつけました。

そのほんには、アメリカとにほんのやきゅうについて、たくさんしらないことがかいてありました。

ぼくは、バットに、ボールがあたるおとが、えいでで

はCRACK!というにほんごではカキーンというようなことをしりました。

ぼくは、ほんとうのやきゅうをアメリカとにほんで、みたいておもいました。

ぼくは、おもしろいほんをみつけると、うれしいです。

あたらしいほんをたくさんみつけて、たくさんあたらしいことをしりたいです。

そして、ほんとうにしらべたり、かいてあることをやってみたりしたいです。



12×12

はじめてのひこうき

W校　一ねん　二くみ

まき　しゅん一ろう

八月二日、日本からアメリカにひこうきできました。おかあさんといもうとといっしょにきました。

ひこうじょうでおねえさんがのるところまであんないしてくれました。一ばんさいしょにひこうきにのれました。うれしかったです。

ひこうきは大きかったけれど、せきはせまかったです。おとながいっぱいすわっていました。

ひこうきは、ゆっくりうごきだしました。きゅうにはやくなって、とびました。そとのけしきは、どんどん見えなくなりました。

ぼくのせきには、小さなテレビがついていました。えいがも見れたし、ゲーム

もできました。ぼくは、たのしくて、ずっとおそんでいました。

ごはんやジュースもでてきました。おなかがいっぱいになったので、ねむくなりました。でもすわってねるのはたいへんでした。

おきたら、ひこうきはまだとんでいました。なかなかつきません。

やっとアメリカにつきま

した。おとうさんが、むかえにきてくれました。ひさしぶりにおとうさんにあえてうれしかったです。

はじめてのひこうきは、すごくながかったけど、たのしかったです。またはやくのりたいです。こんどは、がそく四にんでのりたいです。

「さかなつり」

ニューヨークほしゅう校

W校一年一くみ

中本ゆうせい

なつやすみ、ぼくは、6しゅうかん、日本にかえりました。おとうさんとおかあさんは、二人ともこうべうまれなので、おじいちゃんたちのおうちはこうべです。うみがちかいので、こ

のなつは、おじいちゃんと
おとうさんと、おにいちゃ
んとぼくの四人で、さかな
つりにいきました。

あさ早くおきて、まず、
おみせによって、えさのお
きあみをかいました。ぼく
はとてもたのしみで、早く
うみにいきたくなりました。

おじいちゃんが、ばしょ
をきめて、えさをつけて、
つりざおをたちました。

ぼくは、はじめてじぶんようのつりざおでやりましたすこしまっていると、ツンツンとひっぱられたのでやった！とおもい、いそいで糸をまきましたすると小さいサバがつれましたうれしくて、ぼくは休まずにどんどんつりましたおじいちゃんが、いちどすごく大きなさかながつれたのに、すぐおを上げたとき

に、にげてしまいました。

みんなで、とてもくやしがりました。こんどは、ぼくが大きなさかなをつりたいです。さかなつりは、ワクワクしてたのしいので、大すきです。

ちい年のなつやすみに、おじいちゃんとみんなで、さかなつりをするのが、いまかちまちどおしいです。

とりのおそうしき

W校　一年一組
川原　徹平

せんしゅう、ぼくのいえのにわでしんだとりを見つけました。とりは小さくてまだ子どもでした。とりのいろは、白とくろでした。目をしっかりとじていて、まるでねむっているみたいでした。からだは、ピクリともうごきませんでした。

ぼくは、おかあさんに

「かわいそうだから、おはかをつくってあげよう」。

といいました。おかあさんといっしょに、にわにあなをほって、とりをうめてあげました。目じるしになるように、白い石をにわからさがしてきて、とりをうめた土の上におきました。とりのおはかをつくってあげました。

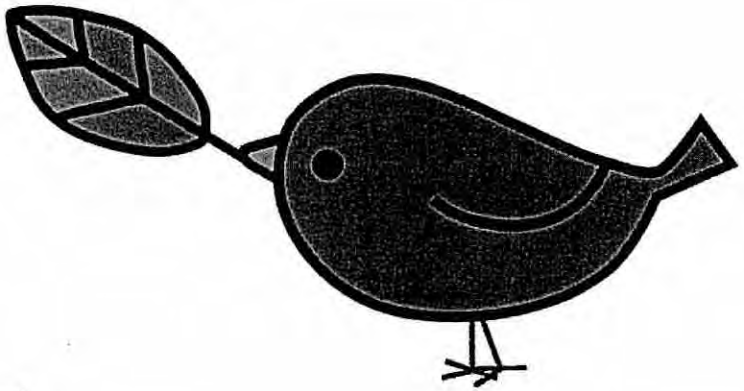
　ガラスまどのちかくでしんでいたから、たぶんとりはガラスが見えなくて、ぶつかってしまったのだろうとおもいます。

　ぼくは、おはかに手をあわせて、

「天国にいけますように」。

と、おいのりしました。

天国は、きっといろいろなとりや人やどうぶつがいて、みんながたのしそうにしてて



いるとおもいます。

12×12